

## 学位申請時の複数筆頭著者の扱いについて

平成18年7月21日 第194回代議員会承認済  
令和5年2月3日 第383回代議員会一部修正

最近生命系の学術雑誌では、「These authors contributed equally to this work」のような脚注がつけられた複数筆頭著者（Equally contributed）の論文が増えてきた。岩手連大では、この複数筆頭著者の論文を学位申請時の主論文として認めるか否かについての取り扱いを、以下のとおり申し合わせる。

学位申請時に提出が必要な主論文（以下必要な主論文と略）が3編以下のとき、必要数の論文は必ず単独筆頭著者論文でなければならない。

必要な主論文が5編のとき、3編以上は必ず単独筆頭著者論文でなければならない。

ただし、早期修了により学位を申請する場合は、主論文が5編以上の場合は5編、主論文が3編以上でそのうち特に優れた論文1編が含まれる場合は3編（特に優れた論文1編を含む）が、必ず単独筆頭著者論文でなければならない。

これらが満たされていて、主論文を必要数以上提出する場合には、複数筆頭著者の論文を主論文に含めて申請しても差し支えない。

(参考)

必要主論文数	条件
1編	・ 課程博士 ・ 論文博士 岩手連大に標準修業年数以上在籍し、修了に必要な単位を取得して退学後、3年以内に申請。
3編	・ 課程博士（早期修了、特に優れた論文1編がある場合） ・ 論文博士 岩手連大に標準修業年数以上在籍し、修了に必要な単位を取得して退学後、3年経過後に申請。
5編	・ 課程博士（早期修了） ・ 論文博士 岩手連大に入学したが、修了要件の在籍年数、単位数に満たず退学後に申請、または岩手連大在籍歴のない者からの申請。